

週間市場レポート (2021年9月13日~9月17日)

1) 先週の市場動向

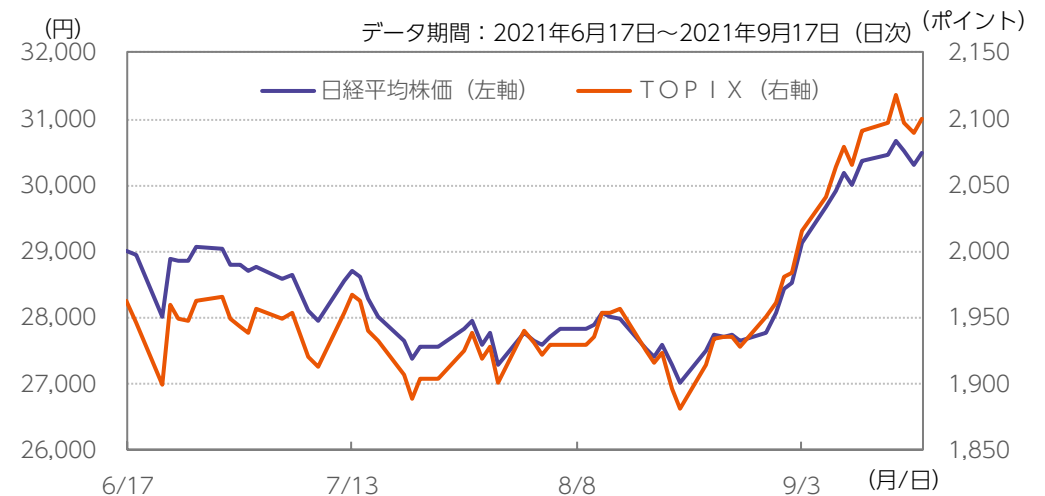
指数名	国	前週末 2021/9/10	先週末 2021/9/17	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		30,381.84	30,500.05	0.39 ↗
TOPIX (東証株価指数)		2,091.65	2,100.17	0.41 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		34,607.72	34,584.88	▲0.07 ↘
S & P500種指数		4,458.58	4,432.99	▲0.57 ↘
ナスダック総合指数		15,115.49	15,043.97	▲0.47 ↘
ユーロ・ストックス50指数		4,170.35	4,130.84	▲0.95 ↘
S & P/ASX300指数		7,409.93	7,408.11	▲0.02 ↘
上海総合指数		3,703.11	3,613.97	▲2.41 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		1,024.17	998.51	▲2.51 ↘
東証REIT指数		2,126.08	2,121.37	▲0.22 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		888.35	886.23	▲0.24 ↘
ASX300 REIT 指数		1,632.10	1,669.70	2.30 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		208.98	208.49	▲0.23 ↘
日本10年国債 (%)		0.048	0.054	0.006 ↗
米国10年国債 (%)		1.341	1.362	0.021 ↗
ドイツ10年国債 (%)		▲0.330	▲0.280	0.050 ↗
英国10年国債 (%)		0.758	0.846	0.088 ↗
ドル/円		109.94	109.93	▲0.01 ↘
ユーロ/円		129.89	128.92	▲0.75 ↘
英ポンド/円		152.18	151.11	▲0.70 ↘
豪ドル/円		80.84	79.90	▲1.16 ↘
フィラデルフィア半導体指数		3,416.66	3,421.16	0.13 ↗
WTI原油先物 (ドル)		69.72	71.97	3.23 ↗
CRB指数		220.43	222.11	0.76 ↗

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいしました。

国内の新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、経済活動が正常化に向かうとの見方や、次期政権による新たな経済対策への期待から前週末から3日続伸し、14日（火）の終値は1990年8月以来、31年ぶりの高値となりました。その後は、高値警戒感から幅広い銘柄に利益確定売りが入り、2日続落したものの、週末は、値ごろ感からの押し目買いにより小幅に上昇し、週間ではほぼ横ばいとなりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

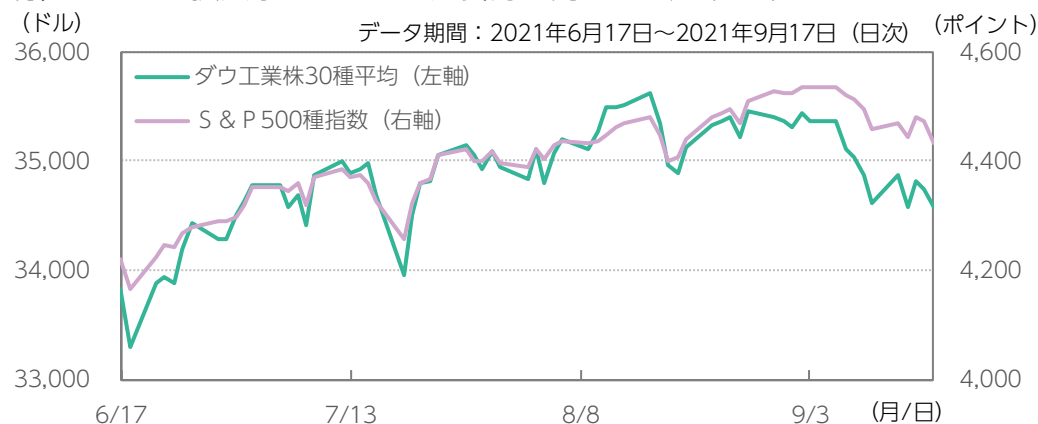
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。米消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回り、金融緩和が継続されるとの見方から米長期金利が低下した流れを受け国内金利も低下しました。日経平均株価が31年ぶりの高値となるなど堅調に推移すると、相対的に安全資産である債券は売られ（利回りは上昇）、週間ではほぼ横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

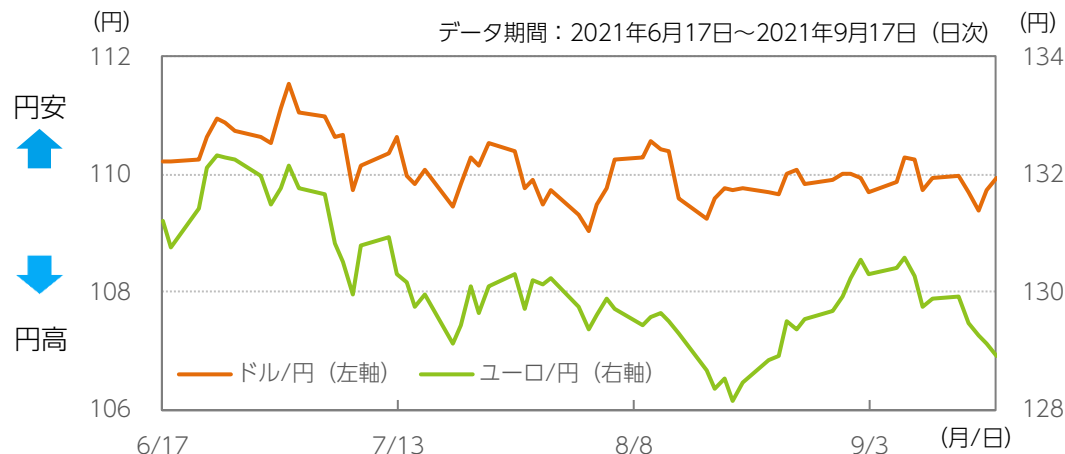
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。消費者物価指数や小売売上高などの主要経済指標の結果を受け、一進一退の展開となりました。足元で下落が目立っていた景気敏感株を中心に値ごろ感から買いが入る場面もあったものの、新型コロナウイルスのデルタ型の感染拡大や、中国の不動産大手、中国恒大集団のデフォルト（債務不履行）懸念から投資家のリスク回避姿勢が高まり、週末は下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で横ばいとなりました。週初は、米消費者物価指数が市場予想を下回り、米長期金利が低下すると、日米金利差縮小を意識した円買い米ドル売りが優勢となったものの、週末にかけて、国内輸入企業などによる実需の円売り米ドル買いが進んだことから、週間ではほぼ横ばいとなりました。



5) 今週の見通しについて

先週の国内株式市場は、次期政権による経済対策への期待が高まるなか、高値警戒感から利益確定売りが進み、前週末比で横ばいとなりました。米国株式市場は、強弱まちまちの経済指標で、週を通じて一進一退の展開となりました。米労働省が14日（火）に発表した8月のCPIの上昇率は前年同月比5.3%となりました。米連邦準備制度理事会（FRB）は、インフレ率の上昇は一時的との姿勢を崩さないものの、5%以上の上昇が4ヵ月以上継続するのは1990年初頭以来であり、高水準で推移する物価を踏まえ、FRBが今後どのような対応を行っていくかが注目されます。

今週は、日米の金融政策決定会合が開催されます。日本は現行の政策を維持するとみられますが、米国は、テーパリング開始時期と具体的な手法について言及する可能性があります。今週の国内株式市場は、来週に自民党総裁選を控え、引き続き次期政権への政策期待から上値を追う展開を予想します。米国株式市場は、米連邦公開市場委員会（FOMC）を波乱なく通過することになれば、安心感から大きく上昇することも予想されます。ただし、中国恒大集団の資金繰り悪化の国際的な影響には注意が必要であると思われます。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>